

ビームタイムアンケート（2015 年前期） 集計報告

PF-UA 会長 平井光博（群馬大学大学院理工学府）

7 月末に締切りましたビームタイムアンケートの結果を報告致します。

皆様のご協力により、登録ユーザ数（3400 名）のほぼ 1/3 に相当する 1031 件の回答をいただきました。心より感

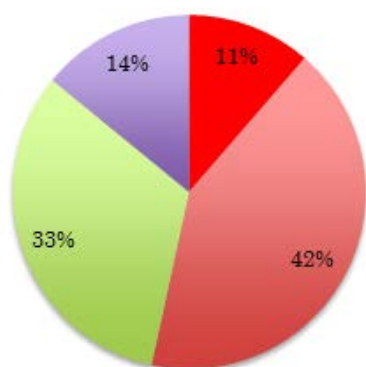
謝申し上げます。

昨年度のビームタイム減少の影響に関しては、研究、教育両面に置いて大変大きな影響があった事が伺えます。今年度前期に関しては、昨年度と比較して、研究面では 6 割、教育面では 8 割程度が満足であるとの回答が得られています。必要な年間ビームタイム配分回数に関しては、年 4 - 5 回、年 2 - 3 回の希望が最多で、6 回以上も 2 割程度あり、加重平均は 4.6 回/年であり、ビームタイム激減前の配分回数（およそ年 3 回）よりかなり多い配分回数の希望があ

1：昨年度のビームタイム急減に関して、研究面での影響を伺います。

昨年度の影響（研究）

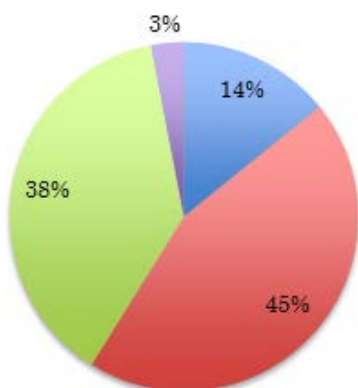
■ 決定的な影響を受けた ■ 大きな影響を受けた
■ 少し影響があった ■ おおむね影響はなかった



3：まだ始まったばかりですが、今年度の現在までのビームタイム配分に関して、研究面での満足度を伺います。

今年度の満足度（研究）

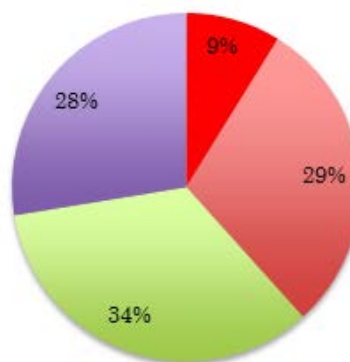
■ 例年以上に満足している ■ 例年通りであり、満足している。
■ やや不満。 ■ かなり不満である。



2：昨年度のビームタイム急減に関して、教育面（学位取得や学生の教育・訓練）での影響を伺います。

昨年度の影響（教育）

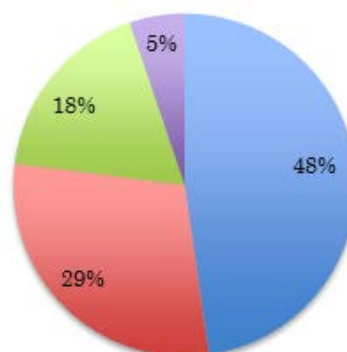
■ 決定的な影響を受けた ■ 大きな影響を受けた
■ 少し影響があった ■ おおむね影響はなかった



4：まだ、始まったばかりですが、今年度の現在までのビームタイム配分に関して、教育面（学位取得や学生の教育・訓練）での影響を伺います。

今年度の満足度（教育）

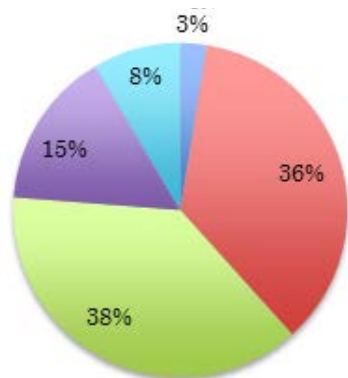
■ 例年以上に満足している ■ 例年通りであり、満足している。
■ やや不満。 ■ かなり不満である。



5：研究を進めるために、年間に必要なビームタイムの配分回数（実験の機会）は何回ですか。

ビームタイムの配分回数／年

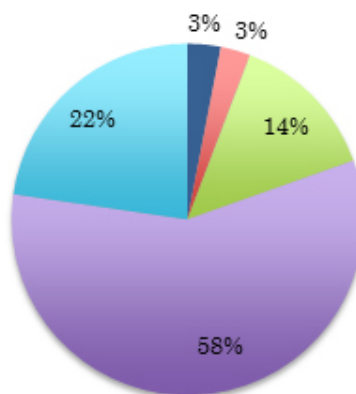
■年1回 ■年2-3回 ■年4-5回 ■年6-9回 ■年10回以上



6：研究を進めるために、年間に必要な運転時間（期間）はどの程度と考えますか。

必要な運転時間（期間）／年

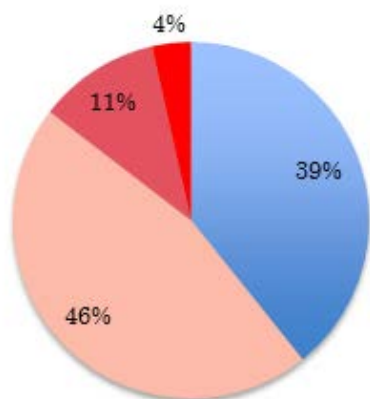
■2400時間（100日）以下で充分
 ■2400-3000時間（100-125日）
 ■3000-3600時間（125-150日）
 ■3600-4800時間（150-200日）
 ■4800時間（200日）以上



7：高エネルギー加速器研究機構長への要望書の必要性について。

要望の必要性

■その必要性はあまり感じない ■賛成である
 ■強く賛同する ■必要ならば協力する



ります。これに相応して、必要な運転時間は、年間 3600-4800 時間（150-200 日）は 6 割程度となっており、加重平均は 4107 時間（171 日）です。マシンスタディー等がユーザー実配分時間に含まれないことを考えると、海外の大型放射光施設の標準的な稼働時間 5000 時間程度の確保をユーザーが希望している状況が判ります。そのため、6 割以上が機構に対して運転時間の増加の要望すべきとの回答が得られています。

また、今回のアンケートでは基本情報の入力をお願いしました。回答者の PF-UA 所属グループとしては、タンパク結晶、XAFS、小角散乱、構造物性の順で多くの回答が寄せられました。複数のグループの選択も重複してカウン

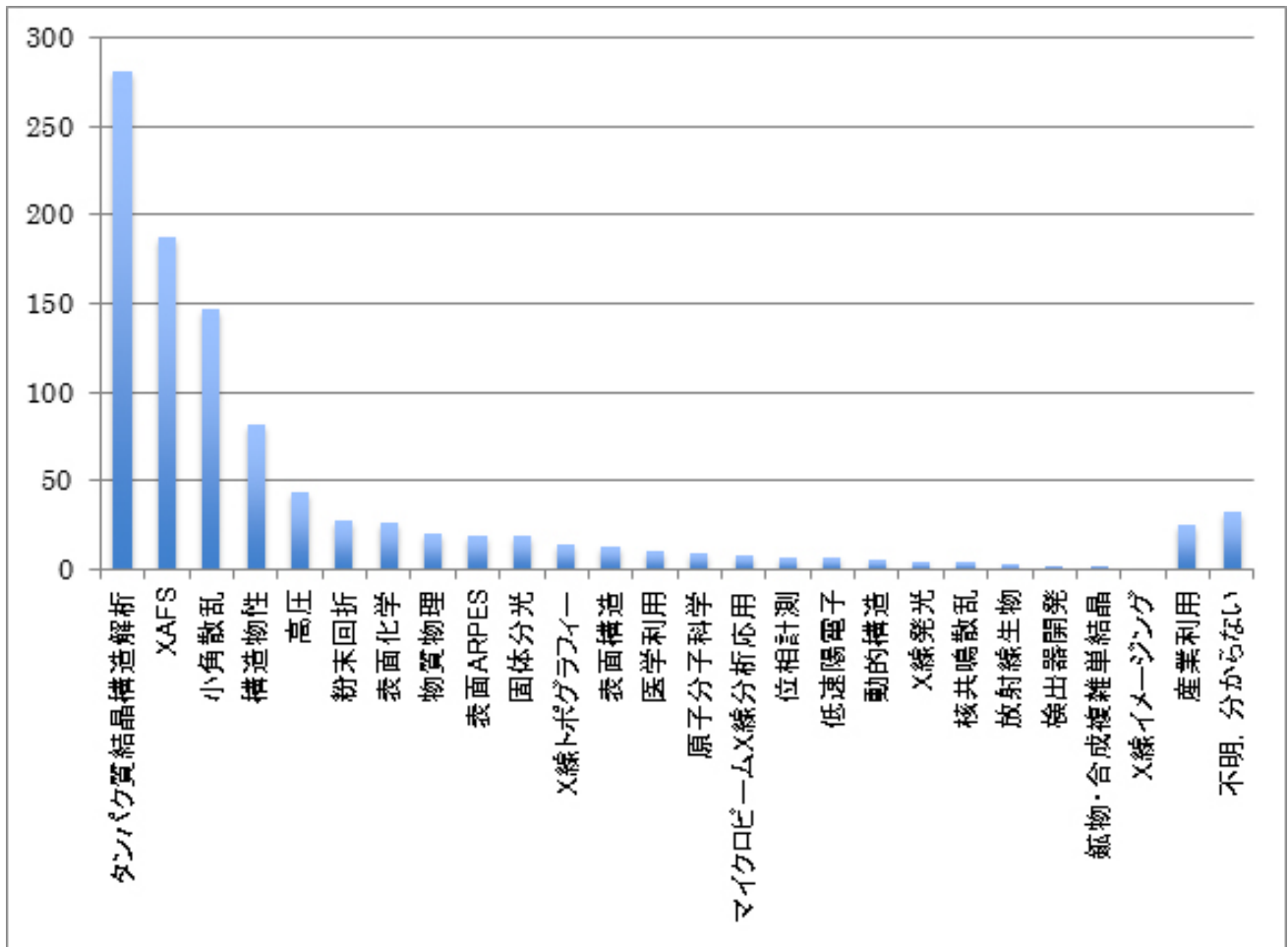
トしています。回答者の所属は、78%が大学関係、8%が企業関係、7%が国立研究所関係、6%が大学・国研の博士研究員、その他となっています。回答ユーザの居住地に関しては、関東 56%、関西 14%、中部 8%、東北 6%、九州・沖縄 5%、中国・四国 4%、北陸 2%となっています。東西日本の区分は明確ではなく、愛知・岐阜・福井以東、愛知・岐阜・信越以東、静岡・長野・新潟以東とする場合や、電源周波数、NTT や JR の営業分類など様々であるため、中部・北陸の回答数 10% を東西日本で 1/2 ずつに分けると、72% の回答者が東日本になっています。性別では、未回答者の大半が女性と推定すると、女性 16%、男性 84% の比率になっています。回答者の年齢層は、20-39 歳までの若手が 62%（20 歳代 36%、30 歳代 26%）、40-49 歳の中堅が 23%、50 歳以上のシニアが 14% となっています。

まとめとして、今年度前期の時点でのビームタイム配分に関しては、昨年度との比較で満足度は大幅に上昇しているが、年当りの配分回数、運転時間に関しては大震災以前を上回る希望が大半を占めていること。大学関係のユーザが 8 割程度、若手・中堅のユーザが 8 割強であり、PF が放射光科学の研究と人材育成に多大な貢献をしていること。東日本ユーザが 7 割、特に関東地域で 5 割強を占めており、ユーザの棲み分けが顕著であることなどが上げられます。女性のユーザがまだまだ少なすぎる様に思われます。

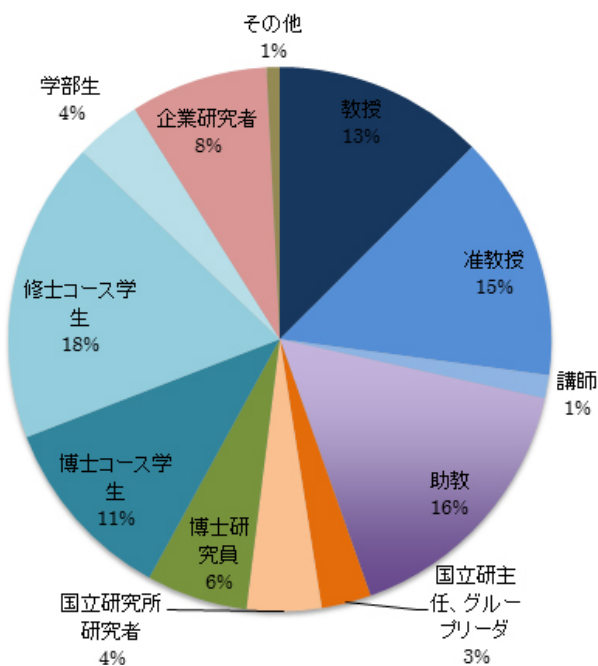
今回のアンケート方式に関しては、概ね賛同が得られましたが、研究所等によっては、アンケート Web サイトにアクセスが不許可の場合もあったので、今後、改善をはかりたいと考えております。

現在、物質構造科学研究所では、昨年 11 月から今年 7

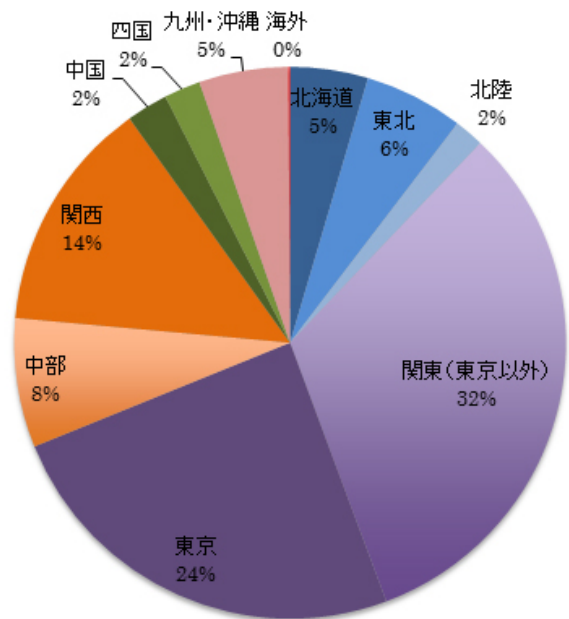
基本情報（1）：PF-UA 所属グループ



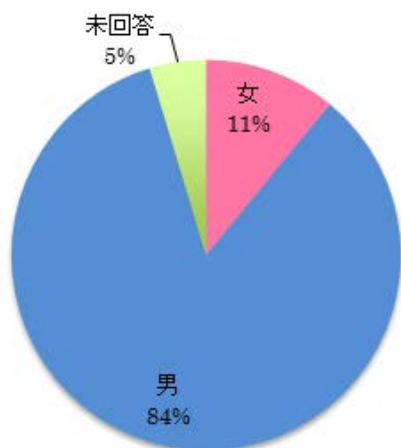
基本情報（2）：回答者の身分



基本情報（3）：居住地域

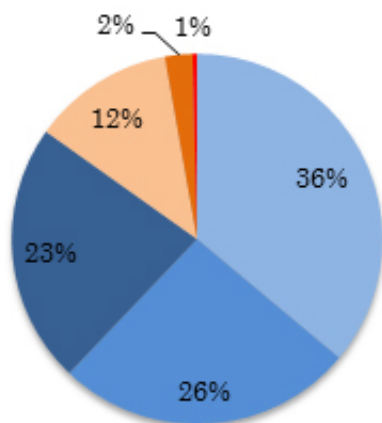


基本情報（４）：性別



基本情報（５）：年齢層

■ 20-29歳 ■ 30-39歳 ■ 40-49歳
■ 50-59歳 ■ 60-69歳 ■ 70歳以上



月まで6回にわたって開かれたPF将来計画検討委員会(委員長：前PF-UA会長佐藤衛先生)でまとめられた「PF将来計画検討委員会報告書-中間まとめ案-」に関して、物構研運営会議に於ける2度の説明を経て、PF将来計画-中間まとめ-の最終的な取りまとめの慎重な審議が進行中です。取りまとめ終了後、ご報告とアンケートを実施する予定です。

PF-UAはユーザの意思・要望を反映させ、放射光科学・利用にかかわる研究の展開、そのための人材育成を行うためのボトムアップの組織です。回答頂きましたユーザの皆様に改めて感謝致しますとともに、今後とも、PF-UA幹事・運営委員、各ユーザグループ代表に対して、率直なご意見・ご要望をお寄せ頂き、各種アンケート等に関しても積極的なご協力の程宜しくお願い致します。

量子ビームサイエンスフェスタでのPF-UA User Group Meeting 開催について

PF-UA 会長 平井光博 (群馬大学大学院理工学府)

来年の3月15日、16日につくば国際会議場(エポカルつくば)にて量子ビームサイエンスフェスタが開催されます。3月14日の夕方は、サイエンスフェスタ会場でUser Group meeting用の部屋を確保してもらう予定です。また、複数のユーザーグループが一同に会する、拡大ユーザーミーティングの企画も検討中です。この機会にPF-UA User Group meetingの企画をお願い致します。

部屋の割り振り等がございますので、User Group meetingを希望されるUser Groupの方は、2016年1月12日(火)までにPF-UA庶務幹事近藤先生(kondoh@chem.keio.ac.jp)およびPF-UA事務局(pfua-office@pfuqst.kek.jp)まで、以下の情報をお知らせ下さい。

- User Group 名：
- 代表者所属：
- 代表者名：
- 参加予定人数(概数で結構です)：
- 使用機材の要(プロジェクター、スクリーン、レーザーポインター)・不要：

なお、量子サイエンスフェスタに参加される方で、旅費支給を希望される方には旅費のサポートがあります。1月末が締切(予定)となっておりますので、早めにお手続きください。量子ビームサイエンスフェスタのHPは12月中旬にオープン予定です。